



保護者のみなさまへ

～「令和5年度全国学力・学習状況調査及びすくすくウォッチ」の結果について～

河内長野市立長野小学校

《基本的な考え方》

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況の把握・分析を行い、教育施策の成果と課題の検証及びその改善を図ること。また学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的にしています。

またすくすくウォッチは、子どもたちに各教科の学力に加え、ことばの力や文章、情報を読み取り考える力、様々な情報を活用する力、そして「見えない学力」と言われるねばり強さや好奇心などを育む、大阪府としての取り組みです。

これらをふまえて、本校では、次に挙げるような成果が期待されると考えております。

○子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ること、学習意欲を高め、自ら目標を持って今後の学習の改善や励みになる。

○学校は、自校の状況をより詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・授業力の向上につながる。



《調査結果の取り扱い》

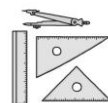
今年度は、全国学力・学習状況調査とすくすくウォッチの結果と分析を提供いたします。

◇本調査により測定できるのは、学力の限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱うことが必要です。

◇学校は、「子どもにどのような力がついてきたのか」「学校がどのような教育を進めているのか」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか」など、一人ひとりの学力向上の取り組みの改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取り組みを進めていきます。

《お願い》

□学習への意欲は、子どもの自尊感情と大きな関係があります。友だちやきょうだいと比較することは、意欲を低下させる場合があります。今回の結果からお子様の伸びや課題を知り、まずはお子様の良いところを褒めてください。その上で、課題について頑張って克服できるよう励ましてあげてください。そのことがお子様の学習意欲を高めることにつながります。



□学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にしていただきますようよろしくお願いいたします。

□調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども並びに保護者の方にのみ提供しているものです。学校間の序列化や過度な競争につながらないように、その取り扱いについては、十分にご留意いただきますようお願いいたします。

1. 学力調査の概要

[1]国語について

【概要】

設問番号	学校の平均 正答率
①一	64.4%
①二	20.3%
①三(1)ア	43.2%
①三(1)ウ	73.7%
①三(2)イ	90.7%
①四	70.3%
②一	87.3%
②二	60.2%
②三	61.9%
②四	44.9%
③一(1)	64.4%
③一(2)	66.1%
③二	57.6%
③三	54.2%

ほとんどの問題で、大阪府・全国平均を下回っており、国語では全体的に課題がみられた。特に、資料を読み、与えられた条件をもとに自分の考えをまとめる記述式の問題を解くことに課題があり、大阪府・全国平均より8ポイント以上下回る設問が2つあった。いずれも、思考・判断・表現をみる設問である。条件を読み取ったり、全体の内容をつかんだりする力が低く、読み取りにも課題があると考えられる。

その他、漢字を問う設問や文章の特徴を読み取る選択問題なども大阪府・全国平均を8%以上下回った。

〈特に課題がみられた問題〉

設問2四の、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、3つの資料のうち2つの資料の情報しかまとめられていない児童が多く、府平均より8.2%下回った。

また設問3二の、目的や意図に応じ、話の内容をとらえ、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、『書き出しの言葉に続けて』という条件を見落としている児童が多く、府平均より10.4%下回った。改善の手立てとして作文指導において、必要な条件や文字数を意識して取り組んでいく。

[2]算数について

【概要】

全体的に大阪府・全国の平均を上回っている。特に式と計算の領域の正答率が高い。それに比べて図形の領域が苦手という傾向がある。

記述式の問題の正答率が大きく落ちていて、無答率も高く10%程度になっている問題もある。

〈特に成果がみられた問題〉

参考になる図や表がある問題や、基礎的な問題については正答率が高い傾向がある。朝の学習の計算タイムで基礎的な学力がついてきたと考えられる。

〈特に課題がみられた問題〉

2(3)のように出題のされ方が複雑な問題の意味を読み取れていない。問われていることと、例で示されていることの区別がついておらず、例の答えを解答としてしまっている児童が多い。また、割合が苦手である。もともとなる数が100以外の数に変わったときに正答率が落ちる。解き方を自分自身で考え工夫できるよう友だちの解き方を学ぶ機会を授業の中で増やしていきたい。

設問番号	学校の平均 正答率	2(4)	29.3%
		3(1)	72.4%
1(1)	94.8%	3(2)	58.6%
1(2)	94.8%	3(3)	78.4%
1(3)	56.0%	3(4)	52.6%
1(4)	81.9%	4(1)	46.6%
2(1)	64.7%	4(2)	84.5%
2(2)	88.8%	4(3)	54.3%
2(3)	23.3%	4(4)	61.2%

2. すくすくウォッチの概要

[1]【わくわく問題】(教科横断的問題)について

観点別	学校の平均正答率
A 図や表, グラフ, 短い文章, 会話文等の内容を関連付けて, 正しくとらえる。	87.7%
B 図や表, グラフ, 短い文章, 会話文等の内容を関連付けて, それをもとに論理的に考える。	68.7%
C 図や表, グラフ, 短い文章, 会話文等の内容を関連付けて, それをもとに新たな課題を考える。	80.3%
D 図や表, グラフ, 短い文章, 会話文等の内容を関連付けて, それをもとに自分の考えをまとめ, 伝える。	76.7%
E 興味・関心のある事がらについて, 意欲的に工夫して相手に伝える。	94.1%

【概要】

本校の平均は府全体を上回っていた。本校の結果を観点別にみると、「E 興味・関心のある事がらについて,意欲的に工夫して相手に伝える。」問題の正答率が他を上回っていた一方で、「B 図や表, グラフ, 短い文章, 会話文等の内容を関連付けて, それをもとに論理的に考える。」問題は若干他を下回っていた。ただし、府全体と比較すると、図や表から情報を読み取る問題と、資料の情報を整理して伝える問題が高い正答率になっていた。

〈特に成果がみられた問題〉

「ピクトグラム」に関して、2025年の大阪万博で、大阪を訪れる世界中の人が困らないように、何をするとするかを伝えるピクトグラムを考えるという問題において、90%近い正答率であった。ピクトグラムを自由に考え、相手に伝わるように工夫することは決して容易ではないが、あきらめず考えたことを書こうとしたことが結果につながった。

〈特に課題がみられた問題〉

集められたピクトグラムを分類した際の、まとまりの名前を考えて記述する問題に課題があった。資料の中にあるピクトグラム(図)を読み取り、それらを分類・整理して、ラベリングを行うことに関して、難しさを感じていたようだ。例をもとに答えの型(「〇〇するとき」で答えればよいということ)がわかっていたとしても、カフェ・コンビニエンスストア・レストランから「食事」というキーワードを導き出すことが困難であった。全体を通して無回答率の低い子どもたちであったが、その中でも比較的無回答率が高く出た問題であった。新聞学習においても、グラフの読み取りが含まれるような少し難しい問題にも挑戦させたい。

[2]理科について

【概要】

知識・技能は大阪府より3.3%、思考・判断・表現は大阪府より2.3%と、どちらも大阪府より高い結果となった。また、設問1「エネルギー」を柱とする領域では本校正答率が76.4%であり、大阪府と比べると3.6%高かった。さらに、設問2「地球」を柱とする領域では本校正答率が75.8%であり、大阪府と比べると2.5%高かった。

評価の観点別	学校の平均正答率	大阪府の平均正答率
知識・技能	77.7%	74.4%
思考・判断・表現	72.2%	69.9%

〈特に成果がみられた問題〉

「エネルギー」を柱とする領域の「光を当てるとあたたかくなること」について、より早くあたためる工夫を考えて書き表す内容は、本校(71.1%)は府(65.3%)と比べて正答率が高かった。記述式の問題は正答率が低くなる傾向があるが、準正答も含めると88.5%と高い結果

となった。光を当てるとあたたかくなるための知識や理由をしっかりと習得していたので記述できたと考えられる。授業において考察の時間をしっかりとったためであると考えられる。

〈特に課題がみられた問題〉

「地球」を柱とする領域の「気象衛星の雲画像とアメダスの降水量の画像から今後の天気の変化」について、本校正答率は23.1%と低かった。雨が降り出すときの雲の様子についての知識があったとしても、複数の設問に適切な回答を要したので、誤答や無回答の設問があったためであると考えられる。理科は生活に密接した内容も多いので、地学に関する気象や月・星、季節など、家に帰っても自然現象を感じられる工夫を行ったり、理科に対する興味がさらに深まるよう、理科室の機器を自由に使えるようにするなど、取組みをしていきたい。

3. 児童アンケートについて

〈特に成果がみられた問題〉

「あなたは、困ったときに相談できる友だちがいる」、「あなたの学級は、友だちが困っているときには助け合う」では、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の回答（以下、肯定的な回答）が90%を超えた。また、「自分には、よいところがあると思いますか」の項目において、「あてはまる」と回答した児童の割合が、全国や大阪府より10%ほど上回った。自己肯定感の低さは、例年、課題を感じており、できている所をしっかりとほめたり掲示したりする取組みをすすめてきた成果と考える。今年度から新たに縦割り活動に取り組んでいるので、さらに成果が出るように努めたい。

「自分の考えをノート等にも書いている」「自分の考えを積極的に発言している」においては、府より10%以上高かった。昨年度の教員全員で行ってきた授業改善の取組みから、書くことへの意識が高まってきていることがうかがえた。

〈特に課題がみられた問題〉

「その時間(授業等)のめあてを意識して学習している」、「その時間に学んだことについて、ふり返りをしている」ではどちらも府との差は大きくないが、40%に満たなかった。また、「ふだん(月曜から金曜)1日に、およそどれくらいの時間、本(教科書は除く)を読みますか」は、「まったくしない」が約32%だった。今年度の取組みに関する項目なので、さらに意識を高めたい。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目において、肯定的な回答が95%を超えているものの、「あてはまらない」という回答が2.5%あった。いじめは絶対にしてはいけない許されないものであると思えるよう、未然に防止できる学習に取り組んだり、片方がいやな思いをしたらいじめと認知するといういじめに対する教職員の意識を高められるよう努めたい。

4. 調査結果を受けて

[1] 学校が重点的に取り組んでいくこと

記述式の問題に課題がみられました。記述するには、複数の資料や情報を読み取り、活用し、自分の考えを書く必要があります。引き続き、本校が重点的に取り組む内容として、自分の考えをまとめたり、伝えたりできるなど、表現力を育む授業作りを行っていきます。日頃から児童が答えを導く過程や情報の精選を大切に学習活動を行えるように、取り組んでいきます。

- ・自分の考えをまとめたり解決方法を出したりすることができる授業づくり
- ・言語活動や学び合いの中で、関わり合いながら高め合っていける授業づくり
- ・決まった時間に決まった場所で学習できる手立てとなる、家庭学習の手引きの啓発
- ・効果的な指導のために、児童の長所と課題について、学校全体での共通理解
- ・情報機器が効果的に活用できるようにするための情報モラル学習の充実

[2]児童のみなさんに取り組んでほしいこと

・宿題以外にも復習をしましょう。

中学校に向けて計画を立てて勉強する習慣を身につけてほしいと思います。予習復習が学習のカギとなってくるので、出された宿題だけでなく、自学自習する習慣をつけましょう。

・得意なことを伸ばしましょう。

情報機器を効果的に正しく活用し、身の回りだけでなく広く社会の様々な情報を収集し、興味関心のあるものを見つけ、主体的に取り組むようにしましょう。

・基本的な生活習慣を身につけましょう。

食事や睡眠時間だけでなく、ゲームやパソコン、テレビ等を見る時間も自分で管理しましょう。

[3]保護者のみなさまに協力してほしいこと

・宿題のサポート

内容が高度になってくる分、理解度が不十分で宿題に取り掛かっても、自力で最後まで解けない児童がいます。宿題のサポートをしてもらえると、子どもが自信をもって登校できるようになるのではないかと思います。

・学習習慣を定着

アンケートの結果から、家庭学習の時間が平均的に少ない傾向がありました。家庭学習の手引きを作成して配布しておりますので、参考にいただき、一定の時間自ら考えず自分で学習することができるよう意識した声掛けや学習環境づくりをお願いします。家庭学習の習慣をサポートしてもらえると、中学校に向けて自分で学習するという習慣がつかます。

・規則正しい生活習慣

規則正しい生活リズムにしてあげてください。特に1日3時間以上スマホ、パソコン、ゲームなどを使用している児童が約32%を超えていることが気になります。使用時間におかれましても、ルールや約束の再確認をお願いします。

・子ども達との日常会話の充実

日々の生活の中で、お子さんとじっくりと話せる時間はなかなか取れないかもしれません。ぜひ、その日学校であったことを聞いてあげてください。楽しかったことも、心にひっかかっていることも、おうちの方に聞いてもらうことで子どもたちは安心して、また次の日に登校できると思います。また、お子さんの小さな変化に気づくきっかけになるかもしれません。